

新国立競技場のシステム等関連整備に係る方針（案）

1. 整備内容の策定における留意点

新国立競技場のシステム等における整備内容の策定に当たっては、「新国立競技場のシステム等関連整備の検討に当たっての基本的考え方」（平成28年8月23日JSC決定）を踏まえ、以下に掲げる点について特に留意するものとする。

（1）整備内容及び方法

ア 東京大会時に必要となるシステム等の整備内容については、組織委員会によるオーバーレイによるものと調整の上、真に必要な性能・数量に厳選する。

イ 大会後は、民間事業者による運営となることを想定し、民間事業者の創意工夫が最大限活用できるように配慮するため、根幹的なシステムのみへのダウンサイジング化にも対応できるよう、長期リース等の活用も含めた検討を行う。

ウ また、機器等の性能の選定及びシステムの構成に当たっては、操作が容易に行え、一定の汎用性・互換性を有するとともに、将来の拡張性についても配慮する。

（2）コストの抑制

ライフサイクルコスト（導入・運用保守・更新）の観点からコスト低減を検討する。

（3）災害時の避難等への配慮

災害発生時等において、施設利用者等を安全かつ速やかに避難誘導を行うために必要となる設備・機能の検討を行う。合わせて、ユニバーサルデザインについて配慮する。

2. 導入を検討する設備や機器等の構成要素

新国立競技場に導入する設備・機器等の構成要素は、上記1. を踏まえ、以下の内容について検討するとともに、併せて過不足等の検証を行うものとする。

(1) 構内情報通信網設備

有線 LAN、Wi-Fi、不感知対応、館内 PHS

(2) 映像・音響設備

デジタルサイネージ、リボンボード、BGM 放送（ローカル音響システム）、撮影用カメラ、館内共聴設備

(3) セキュリティ関連設備

監視カメラ装置、駐車場管制システム、防犯・入退室管理装置、ゲート（チケット）、BCP 運用、サイバーセキュリティ対応、観客避難誘導システム、雷感知システム

(4) 中央監視設備

統合監視システム

(5) その他

OA 機器（PC、複合機等）

＜参 考＞ 新国立競技場のシステム等関連整備の検討に当たっての基本的
考え方（平成28年8月23日JSC決定）抜粋

- （1）2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとなる新国立競技場について、競技者が最高の力を発揮し、観客と一体感のある空間を作り出すために適切なシステム等を整備する。
- （2）世界最高のユニバーサルデザインを備えたスタジアムにふさわしいシステム等を整備する。
- （3）2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会後の運営を視野に入れ、施設の将来可変性に配慮したシステム等を整備する。
- （4）安心・安全なスタジアムとして、災害時の避難及び救援等に寄与するシステム等を整備する。
- （5）システム等の整備に当たっては、できる限りコストを抑制し、維持管理等を最大限考慮するものとする。
- （6）専門家の助言をいただき、決定のプロセスを透明化する。